

【UNHCR特別賞】 横浜女学院中学校高等学校（神奈川県）

Think Globally, Act Locally ～人と人をつなげよう～

学年：高校1年

人数：10名

活動の枠組み：高1 ESD活動

【活動に関わった学校内外の組織や団体】

横浜学院幼稚園 UNHCR協会

【活動のねらい】

このプロジェクトへの参加の回数を重ねるごとに、校内での服の回収だけでなく、「広く地域の人たちにSDGsを広めていきたい」という思いが強くなってきた。本校はSGHネットワーク校であり、中1から高2まで全学年週に1時間ESD活動(ESDタイム)の時間を設けている。高1の学年テーマが「Think Globally, Act Locally」であり、長年地域の国際協力フェスタなどに参加してきたが、コロナの影響で昨年・今年とイベントは中止。そこで今年は店舗と協力して、ひろく来客者にSDGsをアピールすることを目標とした。

【活動内容】

「私たちにできること」の具体的活動目標として「人と人をつなげる」ということを設定。

○「つなげる」第1弾

「伊勢佐木町GU店の大野店長×UNHCR協会天沼さん×横浜女学院高1生徒108名」を試みた。大野店長からプロジェクトの説明を受け、そのバトンを天沼さんが取り、難民の人たちの現状をお話してくださった。

○「つなげる」第2弾 「伊勢佐木町GU店での店頭活動」

①服のチカラプロジェクトをアピールするポスターをつくり来客者に説明

②SDGsアンケート「どのゴールに興味がありますか？」ときいて、SDGsポスターにシールを貼っていただく。

今回は学年108名での活動なので、伊勢佐木町だけではなく元町の協力も得てこのSDGsアンケートを行い、20店舗の協力を得られ、その店舗の取り組むSDGsを生徒が取材・アピールポスターを制作・店頭活動としてアピールポスターとSDGsアンケートまた募金活動を行った。

○SDGsアンケート回答数1546人

【1位 223票 海の豊かさを守ろう / 2位 179票 貧困をなくそう / 3位 128票 すべての人に健康と福祉を】となった。

【課題】

国内にいる難民の方とつながること。近隣には多くの外国につながる人たちがいるので、その人たちに服をとどけたり、交流会を開いたり、ボランティアができないか検討していきたい。

【成果】

今回の活動報告会の発表の中での生徒のコメントには「SDGsを知らない人が結構いるのに驚いた」「もっとSDGsを学びたいと思った」など、自発的に学んでいきたいという意識が生まれたことが大きな収穫であったと思う。

募金活動では27万1402円という額が集まった。生徒たちが「人と人をつなげる」ことを通して得たチカラである。

自分たちにできることは、「服を回収すること」だけでなく、そのような活動をひろく人に伝えること、また今現在私たちが考えていかななくてはいけないSDGsのことを伝えていくことがこれだけのチカラをうみだすことを実感した。

『学校×企業×国際機関・NGO×街の人たち』このつながりを生み出したことに今回の活動の成果はおおいにあったと実感している。



本校にて
GU伊勢佐木町店長大野さん
×UNHCR協会天沼さん
×高1ESD共生チームのメンバー



伊勢佐木町GU店にて「服のチカラPRポスター」と「SDGsアンケート」